

令和7年度さいたま市グリーンスローモビリティ実証実験

Q&A 集

(地域サポーター用)

2025.10.06 ver

さいたま市都市局交通政策部交通政策課

■ グリーンスローモビリティの運行に関すること

- Q. 地域サポーターを担当する日に具合が悪くなった場合はどうすればよいのか
- A. 担当する当日の朝9時までに、さいたま市交通政策課(048-829-1056)へご連絡下さい。土日祝はお取次ぎできませんので、平日(9:00~17:00)にご連絡ください。
- Q. 急な天候不良への対応はどのようにすればよいのか
- A. 気象情報等を踏まえ、運転手と事務局で判断しますので、現場では運転手の指示に従ってください。
- Q. 運行中止は、どのようにお知らせするのか
- A. 運行状況については、さいたま市ホームページに掲載し、お知らせします。なお、「運休」となる場合、当日担当される地域サポーターの方には、当日の朝9時までに、さいたま市よりお電話にて連絡します。
- Q. 運休する条件は何か
- A. 気象等の特別警報や警報の発表、または現地の気象状況や走行環境などから安全な運行が困難となる場合に「運休」となります。また、「落雷・雷雨」の際にも「運休」とする場合があります。いずれにしても、事務局にて運休の判断を行いますので、各自での判断はなさないようお願いします。
- Q. 乗車状況は、確認できるのか
- A. 確認することはできません。
- Q. 乗客は最大で何人乗ることが出来るのか
- A. 車両の最大定員が7名となるため、運転手と地域サポーターを除き、乗客が乗車できるのは最大5名となります。なお、乗客5名の内訳として、「大人5名まで」、「大人4名&子供1名」、「大人3名&子供3名まで」となります。
- Q. 乗車する場所(座席)等に制約やルールはあるのか
- A. お好きな場所へご乗車いただいて構いませんが、助手席に乗車される方は安全面を考慮し、大人の方に限定してください。また、お子様が乗車される場合には、各列に必ず大人にご乗車いただき、お子様のみの乗車列とならないよう、お願いします。また、お子様が乗車される際には、車外に手や顔を出さないよう、同乗の大人の方やお子様への注意喚起をお願いします。

Q. グリス口は誰でも乗車可能なのか

A. 市外の方を含め、どなたでも乗車可能です。

ただし、小学生以下の方は保護者の方に同伴いただく必要があります。また、車椅子利用の方はご遠慮いただいております。

Q. ベビーカーは利用可能か

A. グリス口後部に荷物入れがあるため、その中に納まる大きさのものであればご利用可能です。

Q. 赤ちゃんなど抱っこした状態での乗車は可能か

A. 原則、保護者の方がお子様の安全の確保ができるという条件であれば、ご乗車いただくことができます。お子様がご乗車される場合は、安全上、お子様の横に大人が乗車することとし、お子様のみの乗車列とならないようにしていただきます。

Q. 一人での乗降が困難な乗客がいた場合、介助はするのか。介助はサポーターではなく運転手は対応できないのか。介助した際にケガをして責任問題となることが考えられるため、明確に役割を定めてほしい。

A. 基本的に、乗客への介助は不要です。タクシーと同様に、介助資格がない者が乗客の身体に触れるような介助は、万一の場合に責任問題につながる可能性があるため、一切行わないこととします。

また、運転手は運転業務に従事してもらうため、乗降のサポートは行いません。地域サポーターの方には、安全ベルトの確認や着脱、後部の荷物カゴを利用する場合の積み込み等の補助・サポートをお願いします。

Q. 満席の状態で停留所に乗車待ちの方がいる場合、どのようにすればよいか

A. 原則、満席のため乗車出来ない旨をお待ちの方に伝えていただくこととなります。なお、満席になった時点で、運転手が車内前方に「満席です」のプレートを表示します。ただし、地域の支え合い交通がコンセプトでもあるので、「ご乗車の方で席をお譲りいただける方はいらっしゃいますか」等のお声掛けをいただくよう、お願いします(声掛けは可能な範囲で構いません)。

Q. 地域サポーターが乗車する場所は決まっているのか

A. 安全上、左側からの乗降を原則とするため、地域サポーターは3列目の左側に乗車いただきます。3列目にお客様が乗車される場合は、一度地域サポー

ターが降りて右側に座っていただきます。

Q. 運行中、具合が悪くなった場合はどうすればよいか

A. お客様の場合は、運転手にその旨をお伝えください。運転手が安全確保の上、車両を停車させ、救護等の対応を行いますので、運転手から指示等があれば、救急要請(119)等のサポートをお願いします。

Q. 荷物の管理はだれがするのか

A. お客様の自己責任になります。地域サポーターの方は、利用客の降車時に忘れ物がないかをお声がけください。

Q. 忘れ物・紛失物への問い合わせ先と対応方法は

A. さいたま市交通政策課(048-829-1056)までお問い合わせください。

Q. 停留所に人がいない場合はどうするのか

A. 停留所付近では、乗降される方がいないか確認するために、減速しますので、運転手と協力の上、乗降される方がいないか確認をお願いします。乗降される方がいない、かつ、出発時刻を経過している場合は、停車せず、通過します。

Q. 予定より、グリスロが停留所に早くついた場合はどうするのか

A. 出発時刻まで停留所で停車し、定刻になり次第出発します。

Q. 運行時のトイレのタイミングはいつか

A. 起終点の①停留所にて、出発時刻までに施設トイレをご利用ください。

Q. グリスロ時の飲食は良いのか

A. 熱中症を予防するため、地域サポーターの方には、運転手から飲料をお渡しいたしますので、適宜、水分補給を行ってください。走行中は安全に気をつけてください。

Q. グリスロにゴミ袋はあるか

A. ゴミ袋のご用意はございません。そのためゴミはお持ち帰りください。

Q. 利用者にアンケートはいつ書いてもらう想定か

A. アンケートは配布のみとし、ご乗車された方の都合の良い時にご記入・回答

いただくようご案内ください。また、記入いただいたアンケート用紙は、後日でも構いませんので、公民館(①停留所)に設置している回収箱へ投函いただくよう、ご案内下さい。

Q. 利用者が乗車中にアンケートが書けない場合はどのように対応するのか

A. アンケートはご乗車された方へお渡しいただくのみで構いません。お渡しいただく際に、降車以降にご記入いただき、公民館(①停留所)に設置している回収箱へ投函いただくよう、ご案内下さい(後日投函で構いません)

Q. アンケートをお願いしたら、「前回乗車した際、アンケートは既に回答した」と言われたが、どうすればよいか。何度も回答しなければいけないのか。

A. お配りするアンケートは乗車ごとに回答していただくことを想定していますので、これまでの回答有無にかかわらず、調査票をお渡しいただき、アンケートにご協力いただくよう、ご案内をお願いします。

Q. 運行日誌はいつ記載するのか

A. 気づいた点等があれば、運行の合間等に可能でしたら、ご記入をお願いします。なお、午後便担当の場合、運行終了後、公民館(①停留所)から車両を移動させますので、記入に時間を要する場合は、運転手にその旨を伝えた上で、記入後は公民館へ運行日誌をお渡しください。

Q. 運行日誌のフォーマットはあるのか

A. フォーマットはございませんので、準備しているノートへお気づきの点をご自由にご記入ください。準備しているノートへ日誌の記入例を記載しておりますので、ご参考としてください。

Q. 乗車のたびに、必ず日誌を書かなければならないのは負担が大きい。必ず書かなければならないのか。

A. 記入例等をご覧いただき、ご乗車いただいた際に、お気づきの点があれば、出来る範囲でご記入をお願いします。特になければ、ご記入いただかなくても構いません。

■ グリーンスローモビリティ実証実験に関すること

Q. 実験終了後は、本格実施するのか

A. 現時点では決まっておりません。今年度の実証実験の検証結果や、ボランティア輸送としての地域主体での実現性などを踏まえて検討します。

Q. 今回のルートはどのように決めたのか

A. 地域の自治会や関係者から移動ニーズやご意見等をお伺いしながら、ワークショップの場を通じて、地域の自治会長さまと協働で運行ルートを作成しました。

Q. 停留所はどのように決めたのか

A. 地域の自治会や関係者からいただいた移動ニーズやご意見に加え、停留所間の間隔や密度等について、ワークショップを通じて、地域の皆さまと議論した後、設置する箇所の地権者調整の結果を踏まえ、決定しました。

Q. 運行ダイヤはどのように設定したのか

A. 利用者の乗り降りや走行上の安全確認等を考慮し、平均時速 9km にてダイヤを設定しました。

Q. 今回の運行ルートの良し悪しで、本格導入するか否かが判断されるのか。今後、ルート変更の余地はあるのか

A. 今回の実証実験の主な目的は、グリーンスローモビリティを活用した地域の方々に支え合うボランティア輸送の将来的な実現可能性を確認することであり、今回の運行ルートは一例とお考え下さい。将来、地域の皆さまで続けたいという意向があれば、ニーズに応じた変更の余地は十分あります。

Q. 現在、地域サポーターの担当表に空きがあるが、誰が担う予定か

A. 地域の皆様で追加でのご希望があれば、ぜひお願いしたいと考えています。それでも埋まらない場合は、今回の実証実験では市交通政策課や区役所職員で対応予定です。

Q. 地域サポーターと一目でわかる印をつけるべきではないか

A. 地域サポーターの方には、ネクストラップをご用意しますので、公民館(①停留所)に集合した際に、運転手から受け取ってください。なお、ご担当の乗車終了後、ネクストラップは運転手へ返却ください。

Q. 雨天時、傘をさしての地域サポーターの対応は困難であるため、カッパを着用しての対応は可能か

- A. 事務局にてカップを準備しますので、雨天の際、カップが必要な場合は、運転手へお申し出ください。なお、使用後は運転手へ返却ください。また、カップはご自身のものをご使用いただいても構いません。

■ グリーンスローモビリティの車両・運転に関すること

- Q. グリスロの運転に必要な免許は何か
A. 普通自動車免許となります。
- Q. グリスロの充電にかかる時間はどのくらいか
A. (ヤマハ発動機によると)残量 0 から満充電で約 8~12 時間です。
そのため、1日の運行終了後に充電を開始し、翌朝に充電が完了しているというサイクルでの運用が一般的です。
- Q. グリスロの走行可能な距離はどのくらいか
A. 運行ルートや運転の仕方、乗車人数等により前後しますが、(ヤマハ発動機によると)満充電で約 40km 目安です。
- Q. 車両の値段はどのくらいか
A. 乗車定員数やメーカーによりますが、今回使用する車両の場合、概ね 600-800 万円程度と伺っています。
- Q. 電気代はどのくらいか
A. (ヤマハ発動機によると)一般的な電気自動車とほぼ同じです。※1km あたり約 5 円です。
- Q. 今回の車両は7人乗りだが、もう少し人数の乗れる種類はないのか
A. 車種・メーカーによっては、より多くの方が乗れる車両もあります。今回使用するカートタイプの車両では7人乗りが最大で、それ以上はバスタイプとなり、車体が大きくなります。なお、普通自動車免許での乗員数は 10 名までとなります。
- Q. 車両の大きさはどのくらいか
A. 全長 3955mm,全幅 1354mm,全高 1837mm です。

- Q. シートベルトはないが問題ないのか
A. 道路運送車両の保安基準で、最高速度 20km/h 未満の車両は窓ガラスやシートベルトなどの装着が免除されています。なお、今回の実験では安全性を確保するため、交通量や走行速度などを考慮した運行計画としています。
- Q. 助手席に安全ベルトはあるのか
A. ベルトは設置されています。
- Q. エンクロージャーは雨の日のみに閉めるのか
A. コミュニケーション機会の創出、風を体感いただく点、乗降のしやすさなどを踏まえて、基本的に開放での運行を予定しています。風が強い日や、寒い日などは適宜閉めての走行を想定しています。
- Q. 左ハンドルと思うが、通常、右ハンドルを運転している方が多いため、運転が困難なのではないか
A. 車両の構造上、左ハンドルとなっています。グリスロはヤマハ以外のメーカーによる車両もあるため、車両の使いやすさ等を含め、今回の実証実験でご確認いただきたいと考えております。

■ その他

- Q. さいたま市内で他に実験はしているのか
A. 市内での実験は今回が初めてであり、北浦和・針ヶ谷地区のみでの実験となります。
- Q. 埼玉県内で他に実験はしているのか
A. 県内では、川越市、熊谷市、日高市等いくつかの自治体で実証実験が行われています。
- Q. 社会実装している地域はあるのか
A. 全国的には、千葉市や松戸市などの自治体で本格実装として運行しています。
- Q. どのくらいの人数で運営をしているのか
A. ある自治体では、週3回程度の運行に対して、地域組織で約 30～50 人の

サポーターで運転・運行管理を実施していると伺っています。

Q. 今回の準備にかかった時間はどのくらいか

A. エリアを選定してから、地元調整や運行計画作成など準備期間として、概ね半年程度を要しています。

Q. 地域と自治体の役割分担のイメージはあるのか

A. ボランティア輸送として、持続的な事業とするために、地域が主体となって運行・運営する形をイメージしています。他都市と同様に、自治体が車両調達や保険料など運行経費の負担、ポスターの印刷など一部運営経費の補助、技術的な相談として運行ルート作成支援などを想定しています。

Q. 自治会だけでは運営が難しいと思うがどのように展開していくのか

A. あくまでもボランティア輸送なので、地域主体での展開を目指しています。持続性と運営の体制構築については、地域の実情や周辺施設などの地理的特性を伺いながら、グリスロの特性を考慮して進めていきます。

Q. この車両より、普通乗用車で実施した方がいいのではないのか

A. グリスロは、ボランティア輸送として地域の身近な移動をサポートするため、普通車では通りにくい細い道の運行をコンセプトに実証実験しています。

Q. 狭隘な道路には有用だが、幹線道路を走行が難しいがどう展開するのか

A. 今年度は埼玉県警からも安全面から、最高速度が 20km/h 程度のため、幹線道路での走行は最小限とする、横断する場合は信号交差点とのご意見を反映した内容になります。

今後については、今年度の走行結果などを踏まえて、安全性や周辺交通への影響などを踏まえて、今後協議する予定です。

Q. ボランティアへの参加した方への支援・謝礼はないのか

A. 普通乗用車免許でのボランティア輸送を想定しているため、対価での支払いを想定していません。今後は、今年度の実証実験の結果次第では、地域通貨などボランティア協力によるポイント付与なども検討します。

Q. グリスロとデマンドタクシーでは実質コストはどのくらい違うのか

A. グリスロはボランティア輸送での運用を目指していますが、デマンドタクシーは有償事業で行うため、一概に比較することが出来ません。

Q. コスト評価は今回実施するのか

A. 検討中です。

Q. クロスセクター効果は検証できるのか

A. クロスセクター効果の検証方法については、現時点で確立されたものではなく、国等の研究機関や専門官による検討はされています。今回の実証実験では、利用者特定ならびにクロスセクター効果の検証に必要な行動変異などの検証期間が足りないことから、クロスセクター効果の算出は行いません。

Q. 今回の運行規模だと、どのくらいのボランティア人数が必要か

A. 他の自治体の実施体制から想定すると、50～80 人程度となります。

Q. 今後、継続的にグリスロを運行するとなった場合、自治会内で運転手も探す必要があると思うが、それは負担が大きいのではないか

A. その辺りの所感も含め、本実証実験で本格導入の課題を整理したいと考えています。

Q. 駅への乗り入れを断念した理由は何か

A. 地域主体でのボランティア輸送を想定した内容するため、バス・タクシーとの安全面ならびに競合を考慮し、ロータリーに乗り入れないルート設定をしました。

Q. 地域の経済活性化にはどのくらい寄与できる想定か

A. 消費者庁の統計では、高齢者の買い物への支出割合が高いことから、ある程度は寄与する可能性はあると考えます。

Q. 今回の運行における利用想定・目標数はどのくらいか

A. 1 日利用者数が 20～30 人程度を想定しています。

Q. 保険はどこまでをカバーしているのか

A. 人身事故や物損事故等の場合は対人・対物ともに無制限の補償となります。また、搭乗者については、車両搭乗中に限り、人身傷害は 1 名につき 5000 万円の保証がございます。乗車・降車時も適用対象となりますが、車両付近での転倒や怪我等は対象外となります。

Q. 乗降中の事故が起きた場合、だれが責任をとるのか

A. 乗降中に車両に他車が衝突した場合は、他車運転手の責任となります。また、グリスロ車両の運行中に発生した事故は、運転手の責任となります。利用者ご自身で乗車・降車をして頂くため、乗降時に転倒などが発生した場合は、利用者本人の責任となります。責任は上記の通りですが、自動車保険に加入しているため、自動車に関連する事象については保険による適用対象となります。

Q. 車両は小型であるが、運行できない道路など基準はあるのか

A. グリーンスローモビリティは時速 20km 未満で公道を走行する電動車両の総称で、その車両自体は特別な基準で運行が制限されることはありません。ただし、国土交通省による明確な定義があり、車両の安全基準や道路交通法における扱いも、時速 20km 未満の低速車であることに準じます。したがって、運行できない道路があるかどうかは、道路の幅員や交通状況、そして各地域の交通規制に依存します。

Q. 今回のドライバーは二種免許保有者か

A. 当初は、二種免許保有のタクシードライバーを雇用予定でしたが、ドライバー不足のためお断りされてしまいました。現時点では、二種免許は所有していませんが、運転に自信のある、40 代のドライバーを予定しています。なお、本実証実験は無償運行のため、二種免許は不要となります。